玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 32
R2・12・21

話し合っていますか？家庭のルール

今週末からいよいよ冬休みに入ります。年末から年始にかけて部活も休みになり，家庭で過ごす時間も普段より多くなってきます。そこで問題になってくるのがスマートフォンやゲーム機等の使い方です。インターネットに接続できる機器がこれだけ普及し，多くの子どもたちがそれらを手にする時代になりました。それに伴い，生活習慣の乱れやネットいじめ等の問題，さらには子どもが犯罪の加害者や被害者になってしまうことが起きています。これは特別のことではなく，どの子にも起こりえることです。

お父さん，お母さん方にも読んでいただきたい

講習を受けている生徒の様子

「知らなかった」ではすまされません！

インターネットの利用に関して，様々なトラブルが起きています。これらのことについて「知らなかった」ではすまされません。どんなトラブルがあるのか主なものを紹介します。

①ネット依存
ゲームやインターネット上のコンテンツの閲覧，SNS等でのやりとりに，やめられなくなるほど依存してしまい，日常生活に支障をきたしてしまう。

②ネット被害
悪質なウェブサイトやアプリによって個人情報が取得され，迷惑メールが届いたり，不正請求をされたりする。

③SNS等のトラブル
言葉の行き違いや冗談の書き込みから誤解が生じ，友人関係が悪化したり，いじめにつながったりする。

④見知らぬ人との出会い
インターネット上には，性別や年齢を偽って近づいてくる人もいる。

「家庭でのルールづくり」を

ある有名な学者がこんなことを言っていました。「何のルールもなく子どもにスマホを持たせるのは，危険な盛り場のど真ん中に，子どもを放置するようなものだ。」と。これまでも家庭でのルールづくりについては言ってきましたが，なかなか定着しなかったことの一つは，そのルールが大人から子どもへの一方的なトップダウンというのもあるかと思います。ルールは大人が一方的に決めるのではなく，子どもと一緒につくることが大切です。

ルールづくりのポイント

○ルールがトラブルから自分自身を守ってくれることを伝える。
○お互いに納得できるよう話し合って決める。
○子どもが守れるルールをつくる。
○具体的なルールをつくる。
○守れなかったらどうするかを決めておく。
○トラブルがあったら保護者に相談するよう決めておく。

玉中生のあいさつが玉造地区を元気にする！

先週の朝，学校に玉造地区内に住んでいる方から電話がありました。朝の時間帯に学校に住民の方から電話があるのは，だいたいが良くないことなので，今回も恐る恐る担当の先生が電話を取りました。その内容は「朝，家の前を自転車で通学している玉中生が，私が家の前に立っていると，『おはようございます』と元気にあいさつしてくれるんです。そのあいさつを聞くと，何か元気になってきます。本当にありがとうございます。」でした。

あいさつで地域に「貢献」

この話を職員室で聞いていた先生方の表情は明るくなりました。普段，先生方も教室等で「あいさつの大切さ」についてはお話しています。しかし，校内ではできても，校外では果たしてできているのかという不安があります。今回のように地域の方から感謝の言葉をいただいたことで，私たち職員も自信をもつことができました。

本校の教育目標である「自立貢献」。特に今回の生徒の場合は「貢献」を，あいさつという形ですることができました。玉中生の「あいさつ」で，みんなが住んでいる玉造地区のみなさんを元気にしていきましょう。

ルールをつくった後の見直し

子どもは成長とともに危険に対応する能力も育ちます。また，進級進学や部活動，習い事等の目的が変わり，これまでのルールが難しくなることもあります。そこで，つくって終わりではなく，時々ルールを見直すことも必要です。そして，何よりも私たち大人がインターネット等の正しい使い方を見せていくことで，子どもも正しい使い方を身に付けていくのではないでしょうか。大人の後ろ姿で子どもを育てていきましょう。

冬休みに向けての取組

今週末から入りますが，その前に，本校では学級活動等の時間を使って，スマホの使い方等についての学習を行います。その後，「冬休みの生活について」の資料を全家庭に配付し，冬休み中に「我が家のスマホルール」のワークシートに，ご家庭で話し合ったことをまとめ，冬休み明けに提出していただくことになっています。そして，一月の学級活動で，情報モラルについて，ワークシートを使って学習しますので，ご家庭でのスマホのルールづくりについて，ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

（引用：文部科学省情報モラル委託事業　保護者用啓発教材より）

編集後記

「戦力外」

年末はクリスマスや正月の準備等で街全体が華やかな雰囲気となる。スポーツの世界では契約更改の時期で、新聞紙上では何億の契約だとか、とうてい我々庶民には想像もつかない金額に、やっぱりプロの世界は違うなということを痛感する。

しかし、そんな華やかな裏で、新聞の片隅に「○○選手契約解除」「××選手戦力外通告」などといった記事が寂しそうに載っている。それを見るたびに、華やかさと一緒にプロの世界の厳しさを垣間見ることができる。そんなときに、ある戦力外通告を受けた選手がこんなことを言っていた。

「戦力外という言葉はたった3文字なんだけれど、これほどつらい言葉はない。だって、このチームには僕の居場所は全くないし、自分の存在すらここにはないということ。これほどつらいことを経験したことはなかった。」

確かにこれまで私もプロの世界の華やかさばかり見ていたような気がする。しかし、その裏でこのような自分の存在さえもなくなってしまう厳しさ、それもプロの世界なんだと改めて思った。

そして、自分の働いている学校を考えた。学校はプロスポーツの世界とは違う。だから学校では絶対に「戦力外」をつくってはいけない。学校にいる生徒や教職員一人一人が学校には必要不可欠な大切な存在なんだ。生徒がいるから先生が必要だし、大人へと成長するためには仲間が必要だし、学校には「戦力外」の人間は一人もいない。いや、絶対にそういう存在をつくってはいけない。

（文責：小野口　吉政）